



# 茜雲

大口高校だより



鹿児島県立  
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里2670

TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

## 「大学出張講義」開催

11月12日、毎年恒例の「大学出張講義」を開催しました。今年、熊本大学、第一薬科大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心大学、第一工科大学から講師をお招きして、それぞれ専門分野の講義を行ってまいりました。



熊本大学文学部歴史学科の鈴木啓孝准教授の「替え歌から考える近代日本」という講義を聴講した1年生の林優希君は、「将来、大学で歴史や考古学について学びたいと考えており、今日の講義でより具体的に自分の進路について考えることができた。」と感想を述べました。

## 福祉作文コンクールで優良賞

令和6年度伊佐市社会福祉大会が10月27日に菱刈環境改善センターで開催されました。

司会進行は、2年生の永山裕都君と野平陸叶君が務めました。二人とも堂々とした進行で、安心して見ていられました。



福祉作文コンクールの表彰では、1年生の徳田瑠可さんの作品「思いやりの輪」が優良賞に選出され、橋本市長から賞状が授与されました。



## 篠笛の音色に酔いしれる

11月11日、伊佐市文化会館を会場に、大口高校芸術鑑賞会が開催されました。篠笛奏者の村山二朗氏にギターとパーカッション奏者を加えた3名をお迎えして、伝統的な曲からみんながよく知っている歌謡曲までバラエティに富んだステージを鑑賞しました。

篠笛体験コーナーに参加した3年生の寺師美海さんと藤元泉帆さんは、「見ていると簡単な気がしましたが、実際に吹いてみると難しかったです。」と感想を述べていました。



## いよいよスクールバス開始!

10月23日、中学3年生とその保護者向けに「秋の高校入試説明会」を開催したところ、16組の親子が参加してくださいました。今回の入試から導入する自己推薦制度や、大口中央中学校のスクールバスを大口高校生も利用できることになったことなどについて詳しく説明しました。

参加した女子生徒の保護者は、「高校生もスクールバスを利用できるようになり、とてもありがたい。これで、安心して地元の高校に進学させられる。」と喜んでいました。



## 「かごしま食育フェスタ」参加

11月9日、鹿児島市主催の「第9回かごしま食育フェスタ」が鹿児島中央駅アミュ広場で開催され、高校では大口高校が唯一「フードロス」の取組で参加しました。

当日は、2年生の永山裕都君、野平陸叶君、新富大悟君の3人が参加し、規格外の金山ネギを菱刈田中のネギ農家の大塚さんから提供してもらい、格安で販売しました。

新富君は、「廃棄されるネギを買ってもらったのも嬉しいですが、伊佐市や金山ネギを多くの人に知ってもらえたのも大きな収穫だと思います。」と感想を述べました。



## "English Cafe" 参加

11月14日にかごしま県民交流センターで開催された県教育委員会主催の「イングリッシュカフェ」に、2年生の永田万理香さんと松井杏奈さんが参加しました。

午前中はグループに分かれて自己紹介やゲームでコミュニケーションを図り、午後はグループごとに「鹿児島の魅力」をPRするプレゼンを行いました。

参加した二人は、「単に英会話の上達だけでなく、他校生やALTとも積極的にコミュニケーションを取ることができてよかったです。」と満足した様子でした。



## 「研究授業」を実施

「学び続ける者のみ教える資格がある。」これは、かつて県教育長や総合教育センター所長をされた故濱里忠宣先生のことばです。大口高校でも、先生方が授業力の向上を目指し、毎年研究授業を実施しています。

今年、福崎先生が1年生の「公共」、武田先生が2年生の「化学」の授業を実践し、ICT活用や協働的な学習について、職員全員で研修を深めました。



## 予告! 地域活性化イベント開催

12月26日、大口高校1年生全員で、市内の商店街を会場に地域活性化のイベントを開催します。現在決まっているのは、「アンファン子ども基地」を会場に料理教室や小物作り教室、「MUSIC PLAZA オニツカ」を会場に読み聞かせやミュージックライブなどです。

現在、生徒たちで知恵を出し合いながら実施に向けて準備中です。冬休み中の小中学生だけでなく、地域住民の皆さまもぜひお越しください。

案内のチラシも自分たちで作成中です。お楽しみに!

# 「ふるさと歴史講座（山野線と伊佐の繁栄）」要旨その1

大口高校では、11月に今年2回目の「ふるさと歴史講座」を開講しました。大口高校、同窓会、PTAの三者が主催し、伊佐市と伊佐市教育委員会との共催で実施しました。後援は、南九州郷土研究会、伊佐古文書研究会、大口城を愛する会に加え、吉満校長が客員研究員を務める鹿児島大学法文学部「鹿児島の近現代」教育研究センターからいただきました。

テーマにつきましては、第1弾が「伊佐の考古学」、第2弾が「新納忠元」でしたが、第3弾の今回は「山野線と伊佐の繁栄」としました。大口高校のHPや学校だより「茜雲」などで広報したところ、受付開始の翌日には申込者が定員に達し、その後はキャンセル待ちとなりました。

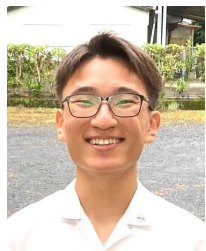
11月6日(水)の開講式では、まず吉満校長が主催者を代表して挨拶と趣旨説明をしました。「今年度はすでに7月に新納忠元をテーマにした講座を開催しているもので、次回は来年度と考えていました。しかし、総合的な探究の時間で生徒たちが調べて発表した旧山野線についての研究が予想以上に素晴らしい出来だったので、研究成果をぜひ地域の皆さまにも還元させたいと考え、急遽今年2回目の講座を開催することになりました。」と述べました。

引き続き、伊佐市の橋本欣也市長から来賓の挨拶をいただきました。「伊佐は教育の町として知られ、中でも大口高校はこの地域の学術・文化の中心を担ってきました。その大口高校が、生徒の教育だけでなく地域住民のためにこのような市民講座を開催していただき、生涯学習の機会を提供していただいていることに感謝したいと思います。さて、最近の嬉しいニュースとして、旧大口南中学校跡地に特別支援学校が建設されることが決定したことが挙げられます。また、大口中央中学校のスクールバスを大口高校生も利用できるようにしました。これからも「伊佐の教育日本一」を目指して、できることから着実に進めていきたいと思っております。」と述べられました。

講座を申し込もうとしたけどすでに定員に達して受講できなかった方や、高校時代に毎日山野線で通学していて懐かしくて仕方ないけど遠方のために参加できないという方のために、講座の要旨を数回にわたって紹介していきます。



【第1回目】11月6日(水)18:00~20:00



講師：中渡 旭望 先生（大口高校3年，生徒会長）

山野線の郡山八幡駅のすぐ近くに生まれ育ち、小さい頃から鉄道が好きで、総合的な探究の時間では「山野線」をテーマに研究を行いました。7月にあった最終発表会の後も、外部の専門家の方などに話を聞いたりして研究内容を深めました。同じクラスの山下清正君と一緒に活動してきましたが、山下君が受験直前ということで山下君の研究成果まで紹介しました。

将来はJRに就職して、新幹線の運転手になるのが目標です。

テーマ：「山野線とその歴史的考察」

研究を始めるきっかけは、かつて家の前を山野線が走っていて、現在も線路の跡地を通学路にしていることで昔から関心があったからです。最初は、いつからいつまで山野線が存在し、どこを走っていてどこに駅があったかということをもとめ、文化祭では手作りの山野線マップを作成し展示しました。

ところが、調べていくうちに「なぜこんな山奥に線路が敷かれたのだろうか」、そして「鉄道によって大口の町がどれほど繁栄したのかということも新たな課題となりました。前者については、布計金山や牛尾金山の存在や鉄道網の拡大に伴う枕木としての木材搬出の必要性が見えてきました。後者については、川内から宮之城線も乗り入れ交通の要所となった大口の町は人口も急増し、加治木や出水にもひけを取らないくらい繁栄したことが分かってきました。

鉄道は単に人や物を運ぶだけの存在ではなく、鉄道が及ぼす恩恵はとてつもないくらい大きかったと言えます。山下君は現在残された数少ない鉄道の遺構などを活かして、例えば史跡巡りやサイクリングなどの活用法を考えました。



講師：竹川 克幸 先生（日本経済大学経済学部教授）

鹿児島大学大学院修士課程を修了後、九州大学大学院博士課程を経て、現在日本経済大学に勤務。専門は明治維新で、薩摩藩の集成館事業に功績のあった石河確太郎や、太宰府における五卿の動向と西郷隆盛についてなどを研究しています。また、歴史を活かした町づくりや観光振興についても造詣が深く、観光学会などで活躍されています。

今回は、鹿大大学院の先輩である吉満校長のたつての願いで福岡から駆けつけてくださいました。

テーマ：「薩摩大口の名所旧跡と文化観光」

現在では、どこの市町村についても「歴史散歩」とか「ふるさと散歩」といった史跡などを紹介するガイドブックが出されています。伊佐市では、明治100年記念で出版された『大口史蹟伝説めぐり』という書籍があり、近年では原田純一著『伊佐市ふるさと散歩』がよくまとまっており、とても便利です。鹿児島県全体でいうと、私の恩師の原口泉著『かごしま歴史散歩』や、先輩の松尾千歳著『鹿児島歴史探訪』などが読みやすく手に取りやすいです。また、各市町村には郷土誌があり、伊佐市は合併前に出された『大口市郷土誌』と『菱刈町郷土誌』があります。

実は、江戸時代にも薩摩藩によって地誌が編纂されました。有名なものでは「薩摩名勝誌」や「三国名勝図会」などがあります。本日は、これらの地誌を基に大口の名所・旧跡を見ていきたいと思っております。山野地区は、肥後国と国境に位置するため、小川内関跡、亀嶺峠などの史蹟や名所が存在し、西南戦争では激戦が行われた高熊山が存在します。郡山八幡神社は、現在では焼酎神社として有名ですが「焼酎」という文字が記された木片が発見されたのは昭和29年の改修の時です。大口地区は新納忠元の居城であった大口城があり、その麓には地頭仮屋（地頭館）が置かれ、政治・軍事の中心として機能していました。現在でも立派な武家屋敷や石堀をもつ家が残っています。ここ大口高校の東側には治額山成就寺という由緒正しい寺院が存在しましたが、現在は墓地のみが残されています。

観光とは「国の光を見る」というのが本来の意味で、国（地域）づくりは人づくりに繋がります。地域の名所・文化財をきちんと理解し活用することが地域活性化には大事です。伊佐市がそうした街であって欲しいと願っています。